

2012.1.18 「TPP はポツダム宣言と同じ無条件降伏だ」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は1月18日です。17日に年が明けてから初めて東京に参りまして、早速、自民党の本部で TPP 即時撤廃を求める会という勉強会に参加しました。そこで、現状について政府から聞き取りをしてきたのです。結果としては改めて民主党政権の出鱈目さを痛感いたしました。

昨年12月5日から9日に、TPP 協定交渉の第十回会合がマレーシアで行われていたのですが、日本の代表もこの会合に参加しました。様々なことが交渉されましたが、ここで大事なことは新規交渉参加国の扱いをもう一度改めて確認したのです。日本やカナダや、メキシコも参加表明を発表しましたが、この新規参加国がどういう扱いになるのかということ、この九カ国はオブザーバー参加や交渉参加前の、条文案の共有は認めないとの従来からの方針を再確認したということです。そして、交渉会合中は新規参加希望国との協議は行わない、そして新規参加国に関する二国間協議は各国首都で行うのが好ましいという意見で一致したということなのです。

これはどういうことかと言いますと、我々は国会で野田総理に対し、TPP 参加は百害あって一利なし、日本の様々な農産物を始め壊滅的な被害を受ける恐れがある、どうするのだと問うと、野田総理はいや、ちゃんと交渉をして、日本の国益に沿うようにする、と言っていたのですが、これが不可能ということ

がはっきりと確認されたのです。交渉参加を希望した新規参加国は全体交渉の場で意見を言えないとはっきり言っているわけです。話をしたければ二国間でして下さいという全くなめられている話なのです。これと同時に、このように日本が自分たちの国益を反映させる場がそもそも設けられない、ということも改めて再確認したのです。以前から我々はいまさら TPP 交渉には参加出来ない、ということを書いてきたのですけれども、改めてそのことがこの九カ国の会合の中で再確認されたのです。

さらに大事なことは、オバマ大統領はこの TPP 参加交渉については、今年中にこの九カ国の意見を取りまとめるといっているのです。このことは当然の流れであります。大統領選挙までに TPP をまとめないと、オバマさん自身も意味がないわけです。そのような状況の中で、いつどこで TPP 交渉に日本の国益にかなう要求を入れるのですかということといえば、入れるチャンスが全くないのです。私は政府の役人に一体いつどこで日本の要求を入れるのですか、ちゃんと教えてくれと言ったら、案の定、何も答えません。彼らは答えられないのです。つまり、日本が、その中で日本の要求を挙げる機会が全くないということなのです。

これにはもう、本当に今更ながら呆れました。これを例えて言うならば、日本が戦争に負けて受諾したポツダム宣言、これと全く同じです。このときは、米英支ソ、すなわちアメリカ、イギリス、中国、ロシア、この四カ国がポツダ

ム宣言を協議したわけです。そして協議したものを、日本にただ飲みなさい、無条件に飲みなさいという話でした。まさにポツダム宣言と同じように、日本は参加表明をしたところで、中身の交渉に一切参加できないが、飲む他に道はない、というポツダム宣言と同じ仕組みを日本は TPP でも受け入れなければならないことになっているのです。

しかしこの TPP は、ポツダム宣言のように何も戦争をして負けたわけではないのです、みすみす飲む必要もない。はじめから入らなければよかったのです。こういう風に日本が条件付けできないところに、おめおめ入っていくのはまさに飛んで火に入る夏の虫じゃないか、いいかげんにしろということをしつと野田さんに言ってきたのですが、いよいよその実態が明らかになってきたということです。これはきっちりと国民に報じられていません。しっかりここは我々が国民に知らせなくてはならないと思っております。

そして、いまだに TPP に参加したほうにメリットがあるのだ、と言っておられる方がいますけれども、さすがに昨日のこの政府の説明を受けてはそういうことも言えなくなってきました。つまり、今までは日本側に有利な条件、日本にとって経済的メリットがあるのだということを政府側が言っていたようでありますけれども、もうここにきては何も言えないのです。自分たちの要求を交渉に反映させることができない。それだけでなく、次から次へと様々な形で、例えばアメリカ側は軽自動車も基準を撤廃しろ、保険も自分たちが入り

やすいようにしろ、といった様々な条件を日本側につきつけています。この要求を一方的に日本は突き付けられる、その片方で、日本は具体的にどうするのかといえば、何もできないのです。初めから **TPP** なんてものはありえないのです。これに諸手を挙げて賛成するなんて人は一言で言いまして、まさに **BKD**、売国奴そのものです。そうでなければよっぽどお人好しで、日本がアメリカの支配下におかれることに諸手を挙げて喜んでいる本当にとんでもない人たちだと言わざるをえません。これを止めたくても今は民主党政権で、彼らは **TPP** をやるといっているのですから、どうしようもないのです。

ですから、これをとめるためにはまず、民主党政権を終わらせなければなりません。ようやく一月二十四日から国会が始まるということが決められましたけれども、この国会の中では最初に第四次補正と平成二十四年の本予算が審議にかけられますけれども、最初は予算ですからその他の法律とか様々なことは議論することができないのです。そして、予算が通った段階でもう我々はいっさいの審議をしない。まずは解散をして、総選挙をして、**TPP** の問題や民主党が言っていたこととしていることが全く違うことになっている現状を問わなければなりません。それから、民主党があれだけ吹聴していたマニフェスト、これに書いていない消費税の問題を平然とネバーネバーギブアップでやっていくなんてことはありえないのです。ですから、まず解散をすることで民主党政権を終わらせるべきです。それから **TPP** に関して言えば、条約批准は絶対

にさせない。そのために民主党を衆議院で過半数割れさせなければならないのです。参議院では民主党は過半数ではありませんが、条約は、予算と同じように衆議院での議決がそのまま国会の議決になってしまいますので、これはもう衆議院で民主党を過半数割れさせる以外に条約の批准を止める方法はありません。そこまで我々は追い込んでいかなければならないと思っております。いずれにいたしましても、民主党政権は今年で間違いなく終わらせることを我々はお約束いたします。それにしても、本当にとんでもないことを民主党政権はやってきている。しかも、こういう売国的なことを、平然とやっていて反省がないということですから、彼ら民主党の議員たちを、二度と国政に参加できないように、完膚なきまでに叩きのめさなければならないということを痛感した次第であります。本年もまた、よろしく願いいたします。

ありがとうございました。